

PR/2019/831

ジュネーブ、2019年4月1日

プレスリリース

WIPO、商標に使用できる 人工知能による最新式画像検索ツールを発表

世界知的所有権機関(WIPO)は、最新の[人工知能](#)(AI)による画像検索技術を公開しました。これにより、指定する市場における[商標](#)の独自性の立証がより速く、簡単にできるようになります。

旧型の画像検索ツールは、商標の形や色を特定することで商標画像の類似性を主に決定していました。WIPOの最新のAIによる技術では、すでに登録されている類似した商標を発見するために、一つの画像内で、例えばりんご、鷹、木、王冠、車、星のようなコンセプトの組み合わせを、深層学習を活用して特定することで、これまでの技術を改良しました。

最新の技術が、類似している可能性のある商標に関して、より少数でより正確なグループを導き出し、これにより、新しい市場での商標拡大に関する戦略的計画に、一層の確実性をもたらすこととなります。また、より少数の検索結果を精査することで、商標審査官、弁護士およびパラリーガル、産業の関係者および研究者に対する人件費の削減にもつながります。

「WIPOの最新のAI技術は、新しい商標画像の開発の確実性を高め、さらには、誤解を招く可能性がある、または、競合している新しい登録をより簡単に監視できるようにすることで、商標分野を大きく改善しました。」と、[WIPO 事務局長フランシス・ガリ](#)は述べました。「このようなタイプの強化されたビジネスインテリジェンスは、商標の保護を模索する経済主体の数が急増している国際化された経済において、非常に貴重です。」

WIPOの新しいAI検索技術には、ディープニューラルネットワーク、そして、商標の国際登録に関する[マドリッド制度](#)や主要な商標庁の図形要素分類データが使用されています。

全ユーザーが、データベースの検索エンジンに完全に組み込まれているWIPOの[Global Brand Database](#)から、AI検索技術に無料でアクセスすることができます。

検索範囲

新しい検索機能は、図形要素の分類システムの使用の有無に関わらず、プロジェクトにすでに参加している 45 の商標庁の国内のコレクションを検索範囲としています。これには、現時点で、合計約 3800 万件の商標が含まれています。WIPO は、世界中からの新しいコレクションをデータベースに定期的に追加しています。

「全世界における知的所有権に対する需要の高まりは、現在使用されているシステムを圧倒しており、そのため、WIPO は、世界中の IP システムを改良するための人工知能によるツールの開発をリードしています。」と、ガリ氏は述べました。さらに、「より大きな情報集積が、より良い AI の成果をもたらすため、Global Brand Database にコレクションを登録していない商標庁は、早急にコレクションを追加するよう奨励します。」

AI の画像類似性アルゴリズムでは、ユーザーはその他の検索基準とアルゴリズムを組み合わせることができます。例えば、指定された司法権または商標登録に適用される商品・役務の国際分類である [ニース国際分類](#) の一つまたはいくつかのパートに検索結果リストを限定することができます。

複雑な画像または合成画像を提出しているユーザーは、画像内で興味のある検索部分に限定してトリミングすることができる内蔵型編集ツールを使用して、関連性の高い結果を得るために、検索画像をさらに簡易化することができます。

WIPO と AI の背景

WIPO は、国際 IP システムの最大の効率性と最高品質を確保するために、新しい技術を引き続き開拓していきます。最新の AI に注目した研究開発チームは、AI による商標検索機能、そして、特許に関する記述のためのニューラル機械翻訳ツール、[WIPO Translate](#) を含むいくつかの新しいツールを開発してきました。

WIPO は 1 月、最新の「[テクノロジートレンド](#)」研究シリーズの創刊号を出版しました。レポートには、特許出願に関するデータや分野の最新の傾向を収集する学術論文の分析が掲載されています。レポートでは、AI 関連のイノベーションを定義および測定し、1950 年代に AI が初めて出現して以降、34 万件以上の AI 関連の特許出願および 160 万部以上の学術論文が発表されたことを明らかにしました。また、AI 関連の商標出願の大多数が 2013 年以降に申請されていました。